

映画に撮影された田園風景・里山の景観に関する研究

○松崎友宜〔東京農業大学〕 △栗田和弥〔東京農業大学〕

キーワード：映画、ロケ地、田園、里山、風景、景観

映画は19世紀に生まれ、制作されるようになってから約120年経つが、現代でも人々の余暇を楽しむ娯楽として親しまれている。近年、映画に映し出される風景には、セットやアニメーション、CG（コンピュータグラフィックス）など、現実には存在しないものもあり、現実にはない風景を視覚化することで愉しさを増している。しかし一方で、実在の風景や場所、建物などに機材などを持ち出して撮影するロケーション撮影は、現在あるいは、ある程度過去の懐かしい風景を捉えることで、共感を得ようとするものもあると考えられる。そのような風景の中には田園地帯や里山地域を選び、日本らしさや郷愁を誘う風景を背景として使用する映画もある。そこで本研究では田園風景や里山の景観を映している映画を抽出し、映像の分析をし、田園風景や里山の景観がどのような場面で使われているか、登場人物の心情にどのように関わっているか、季節や天候による違いがあるかなどを調査した。また、ロケ地を文献調査により割り出し、美しい、あるいは懐かしさを演出できる風景・景観の場所および要素を明らかにすることで、日本の残すべき文化的な風景・景観の一端を示したい。

位置情報を活かしたソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)による
地域振興策についての実験的研究

○山下哲〔東京農業大学〕 △栗田和弥〔東京農業大学〕

キーワード：地域、SNS、地域振興

近年、従来の携帯電話から多機能型携帯電話（スマートフォン）が普及してきている。中でも、情報処理速度の高速化に伴って、位置情報が中心となってソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を提供するFoursquare（フォースクエア、以下FS）と呼ばれる参加型ソフトウェアを利用し、観光客や購買客を誘致したり、評判の書き込みを行ったりすることで情報交換を行う事例が海外では見受けられる。しかし、日本では独自の発展を遂げているため、会員特定の特典を受けるといった利用者・事業者双方のメリットが必ずしも活かせず、その場所（店舗等）で自分が足跡を残す（チェックインする）ゲーム的な内容に留まっている。そこで、本研究では東京都世田谷区の経堂駅南側に位置する経堂農大通り商店街を対象地とする。まず、利用者並びにチェックインができる場所の現状を既存の登録場所から把握した。次に、チェックインできる場所を商店街全域に設定し、その前後のFS利用者がチェックインする人数を把握した。これにより、実際のあるいは潜在的に人気のある店舗や目立つランドマークとなっているか否かを割り出した。さらに、FSによる人気・不人気の要因を現地調査と比較し、考察を行った。